



# 沖縄地域における J-クレジットの活用

一般財団法人沖縄県環境科学センター



# 内容

- \* J-クレジット制度の概要
- \* J-クレジット創出までの流れ
- \* カーボン・オフセットについて



# 内容

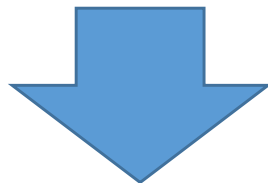
- \* J-クレジット制度の概要
- \* J-クレジット創出までの流れ
- \* カーボン・オフセットについて

# J-クレジット制度の概要



## ◎J-クレジット制度の仕組み

- ・省エネ設備の導入による温室効果ガスの削減量
- ・再エネの活用による温室効果ガスの削減量
- ・適切な森林管理による温室効果ガスの吸収量



「クレジット」として国が認証

# ◎J-クレジット制度の仕組み

省エネ設備の導入  
(燃料転換、高効率化)



ボイラーの導入

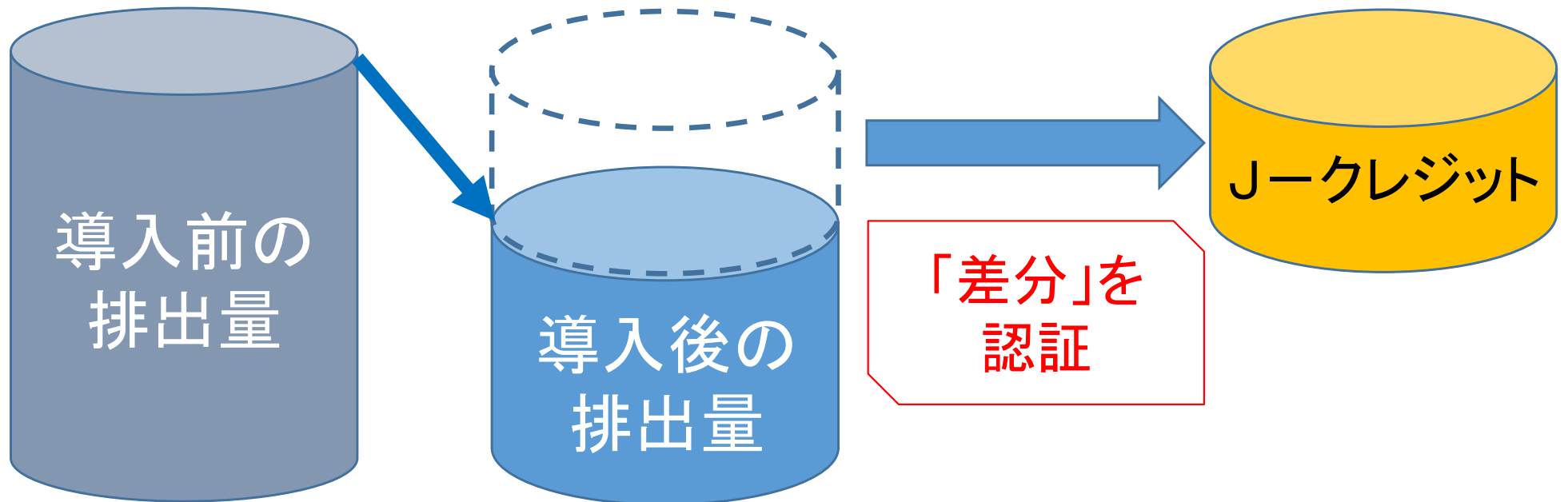


照明設備の導入

再生可能エネルギーの導入



太陽光発電設備の導入



温室効果ガスの排出削減または吸収量の増加につながる事業の実施

省エネ設備の導入  
(燃料転換、高効率化)



ボイラーの導入



照明設備の導入

再生可能エネルギーの導入



太陽光発電設備の導入

適切な森林管理



植林・間伐等

つくるひと  
**J-クレジット創出者** (中小企業、農業者、森林所有者、地方自治体等)

CO<sub>2</sub>等の排出削減・吸収量  
(J-クレジット)

資金循環



資金

目標達成、CSR活動  
カーボン・オフセット



J-クレジット  
の売却

つかうひと  
**J-クレジット購入者** (大企業、中小企業、地方自治体等)



CDP・SBTへの活用  
RE100の目標達成

温対法 省エネ法



温対法・省エネ法の報告



カーボン・オフセット



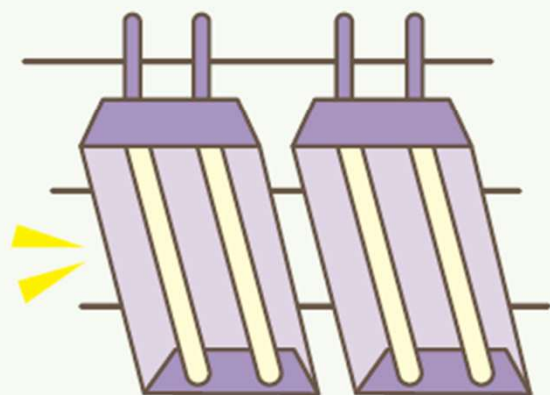
SHIFT 事業  
ASSET 事業

経団連カーボンニュートラル  
行動計画の目標達成

# モデルケース

## 更新前

条 件：100Wの蛍光灯 700台  
稼働時間：3,950時間/年  
消費電力：276,500kWh/年  
排出係数：0.000453t-CO<sub>2</sub>/kWh  
年間排出量：125t-CO<sub>2</sub>



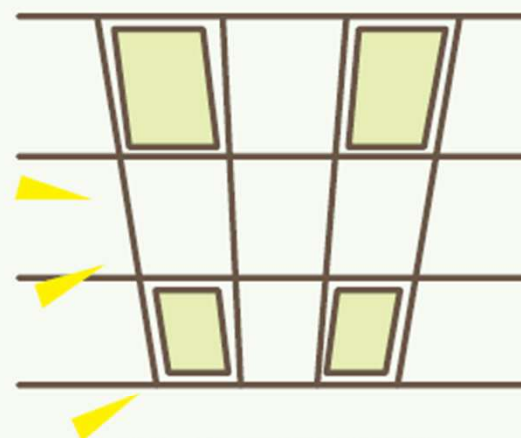
更新前の照明設備



## プロジェクト実施後

条 件：20WのLED 700台  
稼働時間：3,950時間/年  
消費電力：94,500kWh/年  
排出係数：0.000453t-CO<sub>2</sub>/kWh  
年間排出量：25t-CO<sub>2</sub>

ベースラインより  
電力使用量が  
削減される。



省電力の照明設備

**年間100t-CO<sub>2</sub> のクレジット創出**



# 内容

- \* J-クレジット制度の概要

- \* J-クレジット創出までの流れ

- \* カーボン・オフセットについて

# J-クレジット創出までの流れ

## ステップ1 プロジェクトの登録

### 1-1 プロジェクト計画書の作成

「どんなCO<sub>2</sub>排出削減／吸収事業(省エネ設備の導入、森林管理等)を実施するか」を記載した計画書を作成します。

※計画書の作成について支援(コーチング)を受けることができます。  
※対応する方法論がない場合は、新しく方法論を策定する必要があります。

### 1-2 審査機関によるプロジェクト計画書の審査

「プロジェクト計画がJ-クレジット制度の規定に沿っているか」を審査機関が事前確認します。

※審査費用について支援を受けることができます。

### 1-3 プロジェクト計画登録申請

有識者委員会に諮り、国が正式にプロジェクトを登録します。

## ステップ2 モニタリングの実施

### 2-1 モニタリング報告書の作成

国に登録されたプロジェクト計画に基づき、排出削減量／吸収量を算定するための計測や実績を記録した「モニタリング報告書」を作成します。

※報告書の作成について支援(アドバイス)を受けることができます。

### 2-2 審査機関によるモニタリング報告書の検証

「モニタリング方法等がJ-クレジット制度の規定に沿って行われているか」を審査機関に事前確認してもらいます。

※審査費用について支援を受けることができます。

### 2-3 クレジット認証申請

J-クレジット事務局(制度管理者／委員会)にクレジットの認証を申請します。

# J-クレジット創出までの流れ

## ステップ1 プロジェクトの登録

### 1-1 プロジェクト計画書の作成

「どんなCO<sub>2</sub>排出削減／吸収事業(省エネ設備の導入、森林管理等)を実施するか」を記載した計画書を作成します。

- ※計画書の作成について支援(コーチング)を受けることができます。
- ※対応する方法論がない場合は、新しく方法論を策定する必要があります。

### 1-2 審査機関によるプロジェクト計画書の審査

「プロジェクト計画がJ-クレジット制度の規定に沿っているか」を審査機関が事前確認します。

- ※審査費用について支援を受けることができます。

### 1-3 プロジェクト計画登録申請

有識者委員会に諮り、国が正式にプロジェクトを登録します。

# J-クレジット創出までの流れ

## ステップ2 モニタリングの実施

### 2-1 モニタリング報告書の作成

国に登録されたプロジェクト計画に基づき、排出削減量／吸収量を算定するための計測や実績を記録した「モニタリング報告書」を作成します。

※報告書の作成について支援(アドバイス)を受けることができます。

### 2-2 審査機関によるモニタリング報告書の検証

「モニタリング方法等がJ-クレジット制度の規定に沿って行われているか」を審査機関に事前確認してもらいます。

※審査費用について支援を受けることができます。

### 2-3 クレジット認証申請

J-クレジット事務局(制度管理者／委員会)にクレジットの認証を申請します。



## クレジットの認証・発行

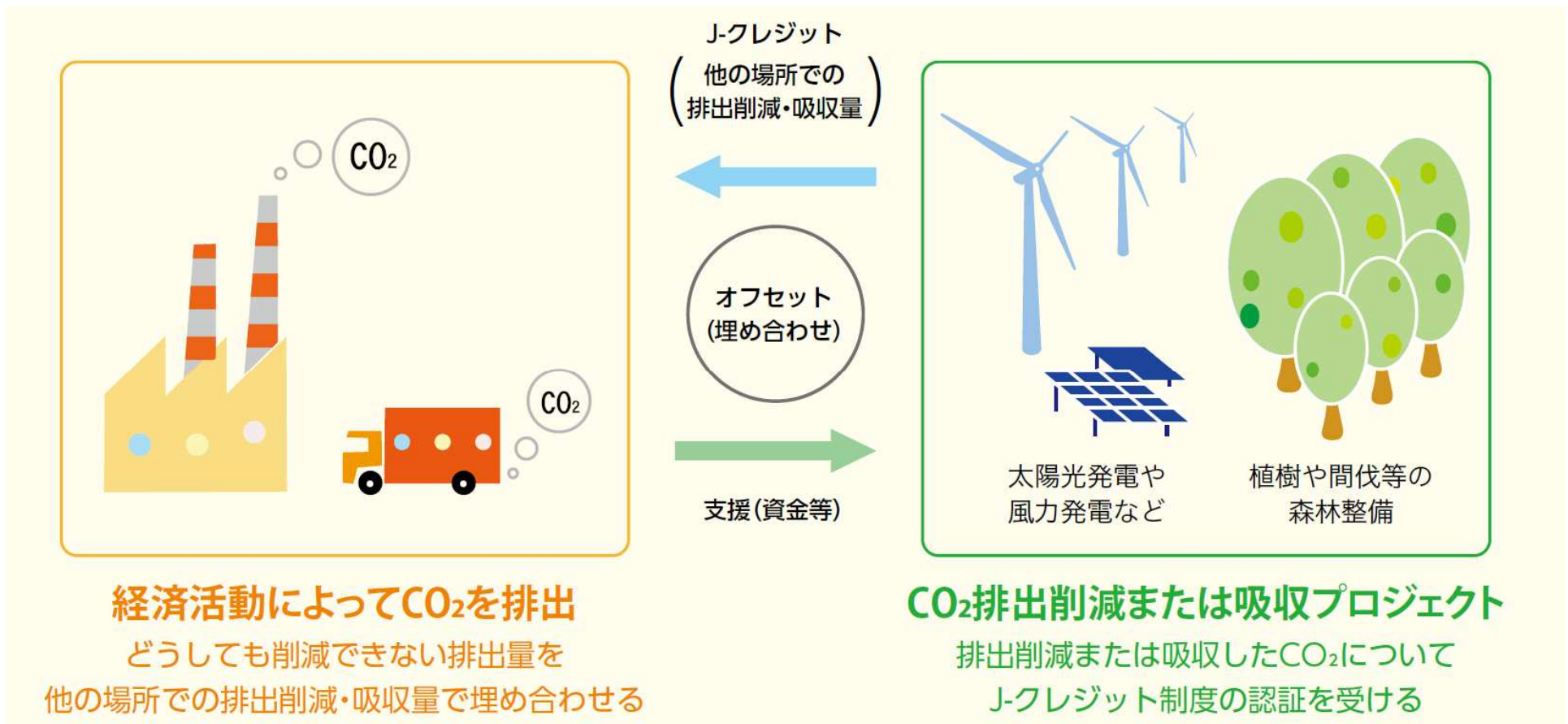


# 内容

- \* J-クレジット制度の概要
- \* J-クレジット創出までの流れ
- \* カーボン・オフセットについて

# カーボン・オフセットとは

排出量に見合った削減活動に投資することで、排出される温室効果ガスを「埋め合わせる(オフセット)」という考え方



# カーボン・オフセットの例

## イベント

地域のお祭りなどで発生する  
排出量をオフセット



## 工事・サービス

自動車や工事用の重機から  
発生する排出量をオフセット

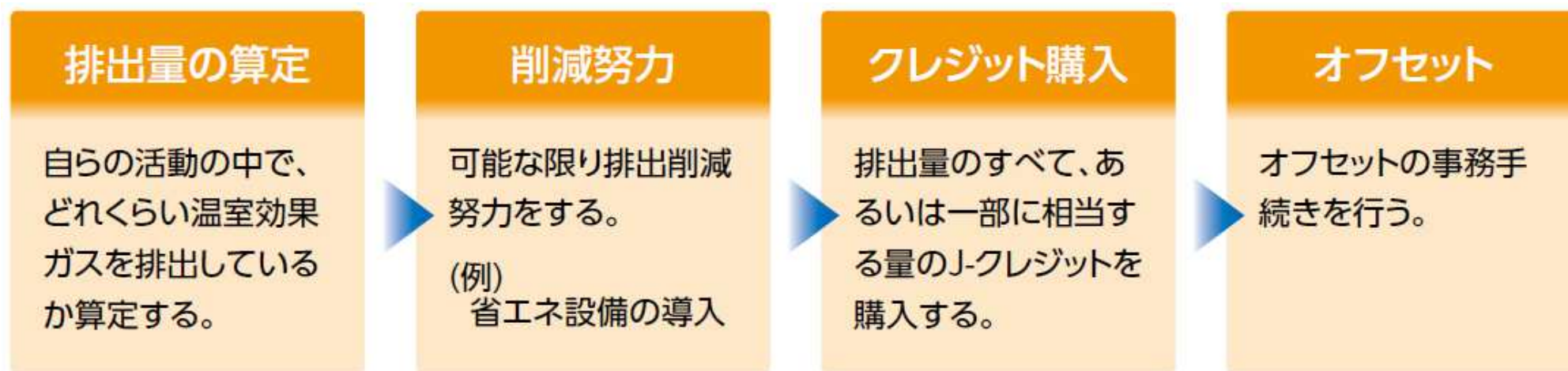


## 商品・印刷物など

商品の製造や印刷の際に発生  
する排出量をオフセット



# J-クレジットを用いた カーボン・オフセットの流れ



CO<sub>2</sub>の埋め合わせに、「J-クレジット」等を使用します。  
J-クレジット等は、1t-CO<sub>2</sub>といった単位で取引されます。



## カーボン・オフセット事例 (2023年度、当センター把握分)

- イベント 6件 29トン
- 印刷物 7件 8トン
- 工事 18件 135トン
- その他 2件 21トン

合計 33件のカーボン・オフセット(193トン)

# イベントのカーボン・オフセット

## 参加者の移動 (自家用車)

100台が5km以内の地域から往復



**0.2** t-CO<sub>2</sub>

燃費:10km/L(ガソリン)  
排出係数:2.32kg-CO<sub>2</sub>/L

## 参加者の移動 (飛行機)

100人が那覇-宮古を往復



**7.2** t-CO<sub>2</sub>

那覇-宮古の飛行機利用  
片道36.2kg-CO<sub>2</sub>/人

## 参加者の移動 (シャトルバス)

10台が片道5kmを30往復



**1.5** t-CO<sub>2</sub>

燃費:5km/L(軽油)  
排出係数:2.58kg-CO<sub>2</sub>/L

## 会場の発電機使用

500 Lのガソリンを使用



**1.2** t-CO<sub>2</sub>

排出係数:2.32kg-CO<sub>2</sub>/L(ガソリン)

## 廃棄物の処理

1,000kgのごみを処理



**0.3** t-CO<sub>2</sub>

排出係数:0.29kg-CO<sub>2</sub>/kg(一般廃棄物)

## イベント期間中の 参加者の生活

1,000人が2日間滞在



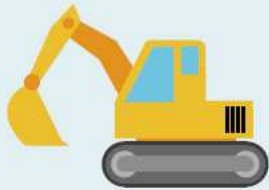
**12** t-CO<sub>2</sub>

1日あたりの排出量6kg-CO<sub>2</sub>/人

# 工事のカーボン・オフセット

## バックホウ

20日間稼動



**2.1** t-CO<sub>2</sub>

1日40Lの軽油使用  
排出係数:2.58kg-CO<sub>2</sub>/L

## ダンプトラック

20日間稼動



**2.6** t-CO<sub>2</sub>

1日50Lの軽油使用  
排出係数:2.58kg-CO<sub>2</sub>/L

## 現場事務所

1年間使用



**7.7** t-CO<sub>2</sub>

10,000kWhの電力使用  
排出係数:0.769kg-CO<sub>2</sub>/kWh

## 工事・調査用車両

年間10,000kmを走行

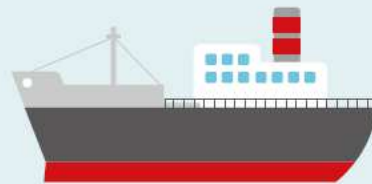


**2.3** t-CO<sub>2</sub>

燃費:10km/L(ガソリン)  
排出係数:2.32kg-CO<sub>2</sub>/L

## 工事・調査用船舶

20日間稼動



**5.4** t-CO<sub>2</sub>

1日100Lの重油使用  
排出係数:2.71kg-CO<sub>2</sub>/L

## 作業員の通勤(車両)

10人×100日×往復10km



**1.5** t-CO<sub>2</sub>

燃費:15km/L(ガソリン)  
排出係数:2.32kg-CO<sub>2</sub>/L



ご清聴ありがとうございました

J-クレジットの創出、カーボン・オフセットに関心のある方は  
お気軽にお問合せください。

以降、補足スライド



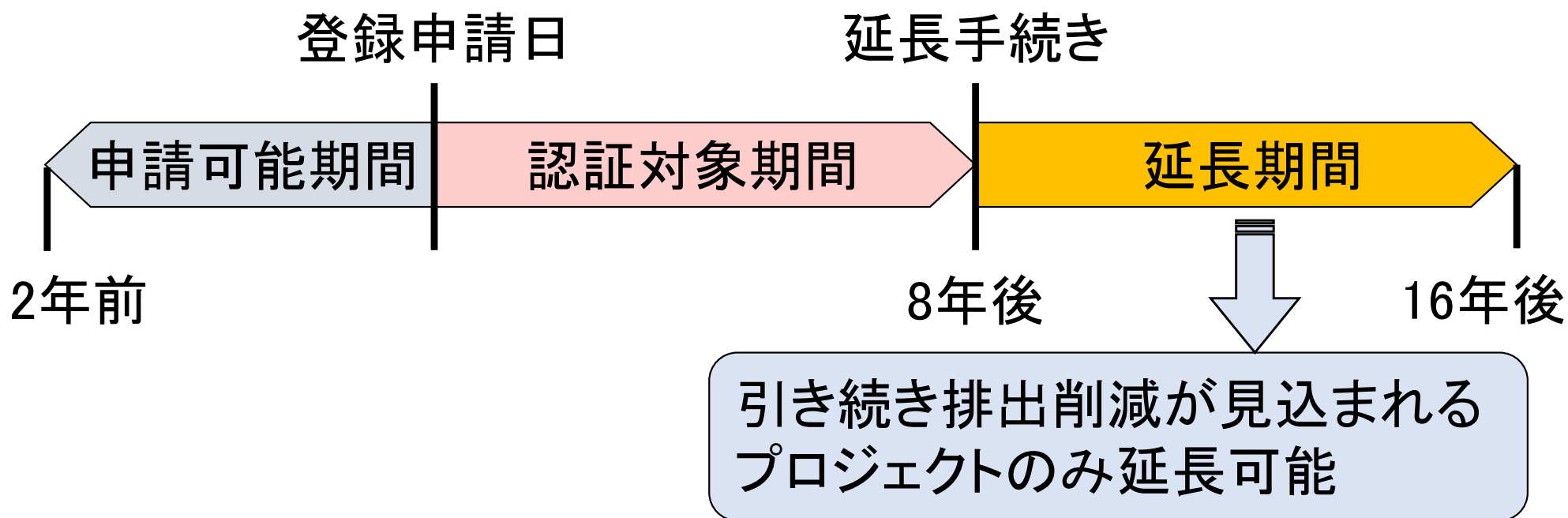
## J-クレジット制度の対象となる事業

- 日本国内で実施されること。
- プロジェクト登録申請日の2年前の日以降に実施（稼働）されたものであること。（≒遡れるのは2年未満）
- 類似制度や本制度で、同一内容の排出削減プロジェクトが登録されていないこと。
- 設備投資回収年数が概ね3年以上であること。
- 審査機関による第三者認証を受けていること。
- 本制度で承認された方法論に基づいていること。

# J-クレジット制度の対象となる事業

◎プロジェクトの認証対象期間

⇒プロジェクト登録申請日またはモニタリング開始可能日のいずれか遅い日から8年間





# J-クレジット制度の対象となる事業

## ◎プロジェクトの形態

### 通常型

基本的には1つの工場・事業所等における削減活動を1つのプロジェクトとして登録する形態

### プログラム型

複数の削減・吸収活動を取りまとめ1つのプロジェクトとして登録する形態  
⇒小規模ながらクレジットを創出可能  
⇒登録・審査の手続、コスト削減可能

# 沖縄県内のJ-クレジット創出事例

## J-クレジット登録事業者一覧

プロジェクト実施者	プロジェクト概要	CO <sub>2</sub> 排出削減量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
沖縄県企業局	浄水場におけるポンプ・ファン類の更新	815
株式会社青い海	製塩工場におけるボイラーの更新(重油→LPG)	322
有限会社登川商事(ドラゴンボウル)	ボウリング場における照明設備の更新(LED化)	112
国立大学法人琉球大学	大学における太陽光発電設備の導入、変圧器の更新	83
株式会社南都(おきなわワールド)	観光施設における照明設備の更新(LED化)、太陽光発電設備の導入	101
有限会社東南植物楽園	観光施設における照明設備の更新(LED化)	53
具志川ゴルフクラブ株式会社	ゴルフ場における照明設備の更新(LED化)	106
タピック沖縄株式会社(ペアール沖縄・タピック)	運動施設における照明設備の更新(LED化)	26
合資会社北谷スポーツセンター(スポーツワールドサザンヒル)	運動施設における照明設備の更新(LED化)	99
タピック沖縄株式会社(ユインチホテル南城)	宿泊施設におけるコージェネレーションの導入(A重油→天然ガス)	160
沖縄綿久寝具株式会社	クリーニング工場におけるボイラーの更新(A重油→LNG)	1,790
株式会社琉球ホテルリゾート那覇 (ダブルツリーbyヒルトン那覇首里城)	ホテルにおけるボイラーの更新(A重油→都市ガス)	256
株式会社みつわ産業	小売店舗における照明設備の更新(LED化)	93
社会医療法人かりゆし会ハートライフ病院	病院における照明設備の更新(LED化)	137
トーラス株式会社	住宅における太陽光発電設備の導入	148
株式会社饒平名エコステーション	住宅における太陽光発電設備の導入	44